

4

子ども達が夢中になって遊ぶ 体験メニューの 考え方、創り方

皆さんが、楽しんでいたこと、楽しんでいること、楽しみたいこと。そんな得意を活かして、子ども達に豊かな体験を提供。偉い先生になるのではない。子ども達に寄り添って、ああでもない、こうでもない工夫や挑戦と一緒に楽しむ。子ども達が自分から体験にのめり込み、大切な何かを自分で見つける応援団を、現場の子ども達は待っています。

1. メニュー提供ボランティアの活躍イメージ

◆提供できることは多種多様

●地域の大人が、子ども達に提供できる体験は、次のように多種多様。あげれば切りがありません。

- * 音楽や絵、書道などの文化活動
- * ドッチボールや鬼ごっこなど外遊び
- * 竹とんぼ、たこなど昔の遊び道具づくり
- * 地域の歴史や食文化を楽しく学ぶ
- * 手仕事や暮らしの知恵を楽しく学ぶ
- * 料理や遊びを通した異文化交流
- * 祭囃子、太鼓などの伝承芸能
- * (ニュー) スポーツの様々な種目
- * 季節の飾り物などの工作
- * 身近な自然探訪や秘密基地づくり
- * なつかしの伝承遊び
- * パソコンや日曜大工

◆期待される活躍像

●例えば、上記した例を見ただけでも、熱中していたこと・熱中していること、やったことがあること・やっていること、やってみたいと思っていること・知っていること、ひとそれぞれながら、何かかわりがあるものを1つは見つけ出すことができるでしょう。



●皆さんには、次のような、ご自分にあった、ご自分も楽しめる活躍が期待されています。

- * 現在熱中していることなら・・・わかりやすく子ども達に教えてあげる
- * 昔やったことがある、遊んだことがあるものならば・・・思い起こして子ども達と一緒に楽しむ（真剣勝負とか）
- * これからやりたいと思うことならば・・・予習をしていき、子ども達と一緒に上達を目指す

◆想定される活躍の場面

- 上記したような皆さんの活躍の場面は、主に子ども達にこうなってほしいという願いにあわせて用意される体験の為の時間となるでしょう。
- もちろん、子どもと接する機会ならばいつでも活躍できます。
- しかし、子ども達に下記のような願いを体験の楽しさの中で手渡すためには、十分な、まとまった時間も必要です。

- * 生涯にわたる趣味や健康づくりのきっかけ
- * 家庭や地域での時間を豊かにする遊びのメニュー
- * 地域のいろいろな立場の人との交流の機会
- * 心のやすらぎや、好きな遊びに没頭する機会

- プログラム提供型の子どもの居場所ならば、「起・承・転・結」の流れの「転の段階」が、皆さんの主な活躍の場面となるでしょう。

- 起・承という前段階で、十分、心も体も温まり、期待感を高めた子ども達に、皆さんは、様々な遊びのメニューを提供します（転の段階での体験メニュー）。

- * 起の段階の遊びを通して、みんなで楽しもうという雰囲気ができあがる。
- * 承の段階の遊びを通して、自分の全力を発揮すること（主体性の発揮）と仲間と協力すること（協調性の発揮）がバランス良く経験されていく。
- * 起の段階、承の段階の遊びを、子ども達と一緒に楽しむことで、子ども達ともうち解けられ、一層メニュー提供を楽しみやすくなります。



2. メニュー提供の意義

- 次のようなあきらかに似た言葉を頻繁に耳にする時代になってしまいました。
 - * 子どもだけでなく、親の世代も、ナマの体験が不足している。親が、人や自然とふれあう遊びを知らないから、子ども達がゲームに熱中し、画面の中の人や自然と接することを好むのも無理はない。
- こんな時代だからこそ、大人が願いをもって、子ども達にナマの体験、人や自然とのふれあいを楽しむ遊びの時間を提供することが大切。
- 願いの多くは、多くの大人に共通していますが、ひとり一人具体的な願いはことなるでしょう。
- メニュー提供をこれまで確認してきたような意義あるものにするためには、受講生の皆さんをはじめとした現場での仲間の中でひとり一人の願いを共有することも大切です。
- ここでは、共有に役立つ、多くの大人の願いを理屈にまとめたものを一覧で紹介します。

発達という視点から、今の社会だからこそ学童期の子どもにとって、生の体験をすることが一層大切になる、とする考え方があります。

* 学童期のこどもにとっては、「様々な情緒体験を多様な人間関係の中で体験し、味わい、自他を区別することが根付くことが大きな発達課題」

* そこでは、インターネットに代表される擬似的、議事空間的な体験が、「引きこもりの心性や、現実と空想の区別の曖昧な心性を形成しやすいもの」として問題に。

地域への愛着や地域の人々とのつながりの形成という点で、祭で奉納する歌舞伎の練習を継続的に行う子どもの体験を評価する研究者もいます。

* それは、練習から当日までの以下のような一連の過程で、地域社会が子どもに活躍の場を与えているからだ、と言います

* 祭の数ヶ月前から、地域の大人達が先生役になり、子ども達にせりふや所作を教える

* 祭の当日は、子ども達が主人公になって、地域の大人や見物客から拍手喝采を得ている。

学童保育の活動家の中にも、大切なのは、**子ども達自身の「要求になりうる見通しを持って、意図的に大人の側からあそびを導入していく」**ことだとする方もいます。

* 「当面の子どもの興味・感心に即して指導しているだけで、あそびの成果を豊かにし、なかま意識を広げ深めていけるかということ、けっしてそんなことは」ない。

* ほっておけば、仲間と様々な体験をするよりも、「テレビゲームやカード遊びに浸ってしまう」のが今の子ども達の現実

◆胸を張ってメニューを提供

- 子ども達が大人から学ぶ体験＝大人によるメニューの提供は、子ども達の大切な経験となっていきます。
- メニュー提供ボランティアは、こんな体験をして欲しいという願いを持って、自分自身の得意なこと、好きなことを活かしたメニュー提供（体験の機会提供）をします。

- * ともすれば、子ども達がすべてにおいて自由に創り出すことだけが、子どもにとって意味のある遊びを通した経験と決めつる方もいます。
- * それは、すでに紹介した様々な視点からもわかるように、誤解に基づく主張です。皆さんは、胸を張っていただいて結構です。

多くの子どもの居場所では、伝承あそびや工作等のメニュー提供ボランティアとして活躍しています。そんな方達がどんなやりがい、楽しさを得ているのか。皆さんの先輩達の声を紹介しましょう。

- * 私自身が楽しかった。1～2歳の子の喜ぶ様子が嬉しかった。
- * 子どもたちがにこやかに参加してくれて、楽しく遊んでもらいました。こういう機会を設けて、活動されている方々の熱意に感心しました。
- * 子どもたちの生活に潤いを与えられると思います、また参加できることをたのしみにしています。
- * 暫くぶりで小さな子供と遊び、又、私の言った事を素直に受け止め、遊んでくれた事が嬉しく楽しく、次回もと、心が、気持ちが動きました。
- * 子どもたちにも、大まかに伝承遊びの楽しさが伝わったのではないかと。子どもたちにとって、今まで知らなかった遊びだけに、いい体験になったのではないかと思う。
- * やりがいがある。仕上がった時の親子の楽しそうな顔、これがあるから止められない。今後も色々な企画に参加して、実力を付けたい。
- * 良いことをやっているなと感じた。こういうことに参加することができて嬉しかった。子どもたちを楽しませようとするスタッフの努力に感心致しました。
- * 普段やっていないと子どもたちが、作ってほしいものを言われてもすぐには対応ができなくなってきた。子どもたちは袋をふくらますことを楽しんでいる。小さい子には口を結ぶのがたいへんなようであまくゆわける方法をあみ出したい。



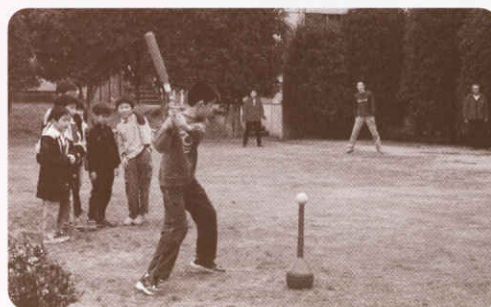
3. メニュー提供のポイント

◆やってみたいと思えるように提供

- これまで（上記2で）、皆さんがメニュー提供に活かそうとする趣味や特技や、子ども達にこんな体験をして欲しいという願いは、それぞれ大切な価値を持っていることを確認してきました。
- ただし、いくら大切に価値がある事柄でも、やりたくない、つまらないと子ども達が感じてしまつては、皆さんの願いは受け取られないでしょう。
 - *かといって、芸能人のまねごとをするなど、人気取りをする必要はありません。
- 皆さんが楽しんで欲しいと思っていることを、子ども達自身がやってみたいと思えるように提供することが大切なようです。

◆自信とやりがい

- 先に紹介した学童保育の実践家は、次のような事例を紹介しています。
 - *皆が全力で取り組めるお手玉を導入。
 - *すぐれた指導員が、ある女の子のちょっとした上達を見つけては褒める。
 - *同時に、周りの子ども達にもそのことを伝えて、皆でその女の子の上達を喜ぶ雰囲気をつくる。
 - *消極的だった女の子に、失敗や人目を気にせず、様々な課題に挑戦する姿勢が芽生え始める。
- 指導員のお手玉への挑戦を通して何か大切なことを獲得して欲しいという願いがありました。しかし、当初は、指導員の願いは、女の子の“自分がやってみたいと思える”ことではなかったようです。
- ちょっとした上達を実感し、周囲もそのことを一緒に喜ぶことがきっかけになり、与えられた遊びであるお手玉が違った意味を持ち始めたのではないのでしょうか。
- つまり、挑戦のしがいのある、自分のできることを膨らませてくれる“自分がやってみたいと思うこと”としてのお手玉という意味、を。
- このように、皆さんが大切な願いをのせて子ども達に提供する体験メニューが、子ども達がやってみたいと思う体験メニューになるための秘訣は、**それを楽しむことで、子ども達の「自信（できること）」や「やりがい（挑戦のしがい）」が膨らむかどうか**にあるようです。



◆子ども達の効力感を高める体験

- ちょっとしたことで上手くできたという体験をする。そのことを通して、できることがひろがったという自信がつく。
- さらに難しい課題に挑戦しても、何度か挑戦すれば自分はきっと成功するだろうという見通しを持つようになる。
- このような自分への自信や、自分はできるという思いを、学者の世界では、自己効力感と言うようです。
 - *自分への自信が持てない（自分が好きになれない）、どうせできない、やっても無駄と挑戦から逃げてしまう。今の子どもたちの様々な問題に共通して見られる悲しい子どもたちの状況。
 - *自己効力感という言葉借りるならば、自己効力感を高める体験ができなかった（不足している）子どもたちの姿と言い換えることもできるでしょう。
- 皆さんには、好きなことややりたいことといったご自身の楽しさを活かしながら、子ども達に不足している自己効力感を高められるような体験を、遊びを通して提供していただきたいのです。

*例えば・・・自分の可能性を信じられるようになる遊びの体験

*例えば・・・自分の力でできることが膨らませられる遊びの体験

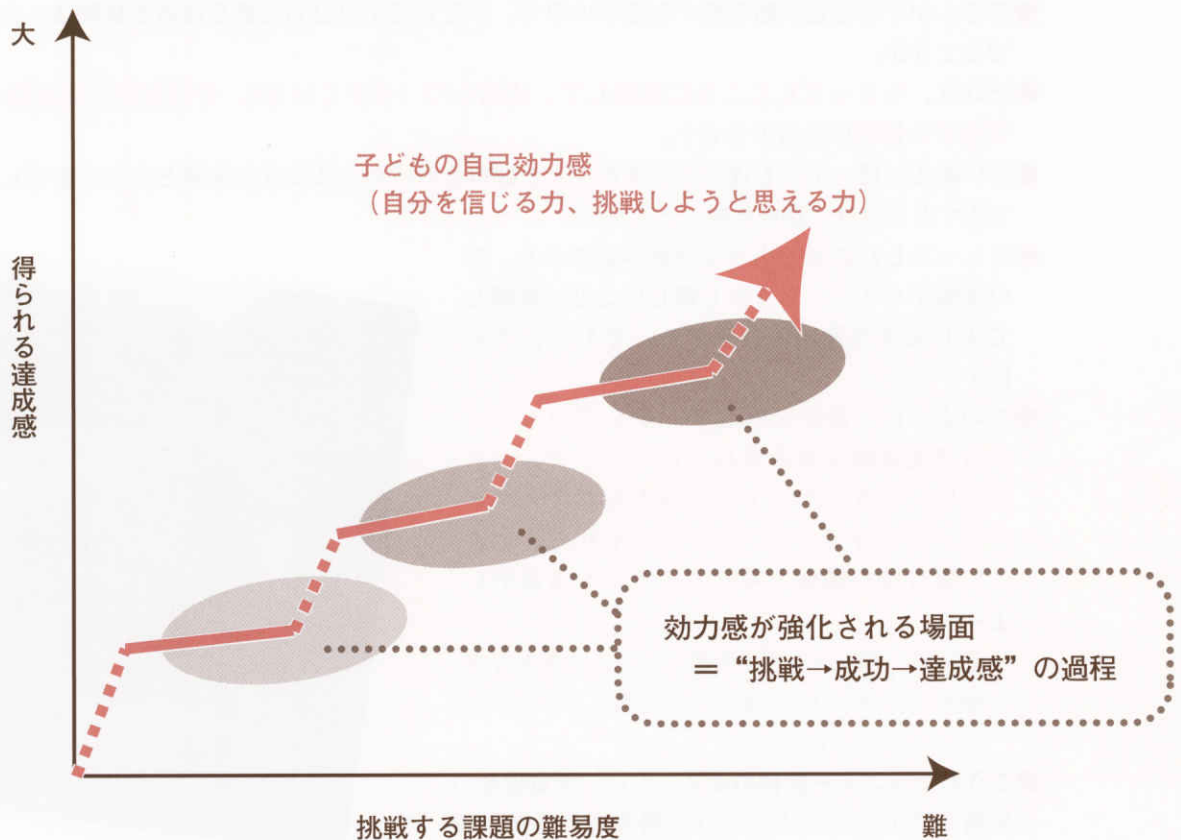
◆効力感を高めるための達成体験（できたー体験）

- 皆さんが子ども達に贈る様々な遊びの中で、子ども達が自己効力感を高める秘訣は、どのようなものでしょうか。
- それは、ちょっとしたことに挑戦して、成功して（上手くいき）、その喜び（達成感、充実感）を実感する体験にあるようです。
- 言い換えれば、子ども達が「できたー」と歓声をあげられるような体験ともなりますし、今後は一言で表すときには「達成体験」とします。
- ちょっとしたことで小さな達成体験をする。その体験をバネに、もう少し難しいことに挑戦して少し大きな達成体験をする。そして、さらに・・・。
- このように、遊びを通して、少しずつ大きくなる達成体験を積み重ねていくことで、子ども達は、ボランティアから与えられたメニューを、受け身でなく、自分からやりたいと思っ
て取り組む体験と考えるようになるでしょう。
 - *そして、ボランティアの願いを超えた豊かな経験を、自分の力で、楽しみ、血肉としてくれるようになるはずです。
- こうしたメニュー提供のポイントは、学童保育の事例だけでなく、次のような研究者の指摘から



も浮かび上がります。

- *子どもの育ちには、失敗しないことではなく、失敗したことで挫折せず、新たな解決の方法を探して、試して、乗り越える、といった経験が、何よりも大切。
- *失敗を乗り越える度に、何かをなしとげた、自分のできることが広がったという達成体験を重ねることができる。
- *こうした能力の広がりを経験を積み重ねることで、自分の能力への自信がめばえ、積極的、肯定的な自己像を持つことができるようになる。



■■■■■■ 提供する体験のタイプにも配慮を ■■■■■■

*皆さんが子ども達に贈る遊びの種類は、幅広く捉えられます。本文で紹介した、子ども達が達成体験を積み重ねながら自己効力感を高められるように提供するというポイントの他に次のようなポイントもあります。

*それは、自分が提供できる遊びの種類が、子ども達に何を手渡ししやすいものなのか、どんな特徴があるのかを考えるということ。

*ここでは、伝承遊びとスポーツの比較を通して、遊びの特徴を考える視点を紹介します。

<伝承遊び>

*次のような点で異年齢の遊び集団に向いている。

*鬼ごっこの「陣」(鬼に追われた時に逃げ込める場所)や「一人ねらいは三度鬼」のように、ルールや役割として、技術や身体能力の劣る子どもの参加しやすさが保証されている。

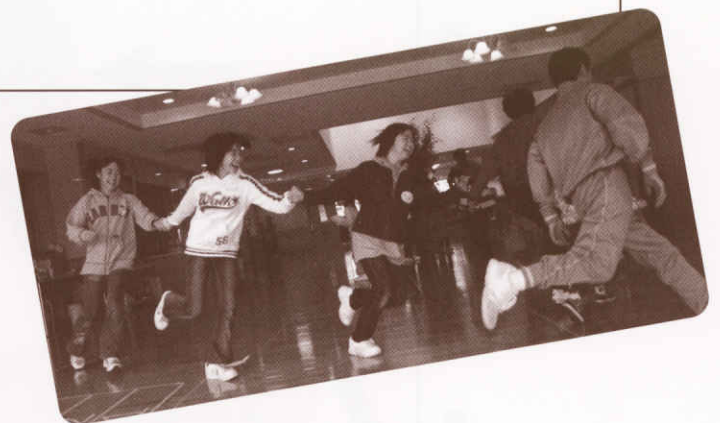
*そうした保証により、技術、能力の高い子どもが、力加減をするのではなく、全力を出して、技術、能力等の低い子どもと一緒に遊ぶことができる。

<スポーツ>

*次のような点で、メンバーが同年齢、同質な遊び集団に向いている

*スポーツの喜びは、競い合って、自分が優れていることを自己確認したり、周囲に認めて貰うこと。

*その喜びは、自分と力が拮抗している相手との、公平なルールに従った競争の中で得られる。



4. メニューづくりの基本の考え方と方法

◆助走期間を工夫する

- 子ども達が自分で挑戦したいという気持ちをかきたてられる経験（挑戦することで喜びが得られるという確信）や、ある程度の達成感を得られる課題に挑戦できる技術や知識を獲得できる、助走期間が必要です。
- こうした助走期間を工夫することが、子ども達が自己効力感を高められるような（3で紹介）メニュー作りの方法とすることができます。

◆できることが少しずつ広がる階段をつくる（基本の方法）

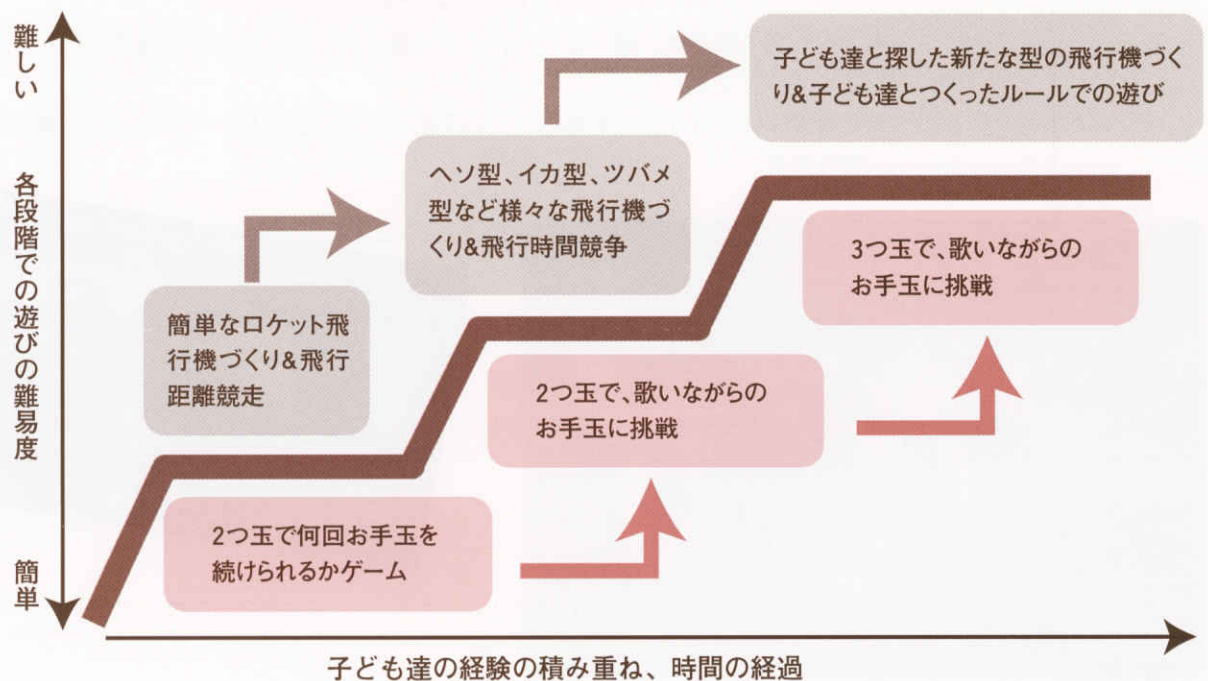
- 助走期間とは、言い換えれば、次のようになります。

低いところから、階段を一段ずつ登っていくように、簡単なことから難しいことへといういくつかの段階に分けて遊びを展開する

- 是非、子ども達に寄り添い、一緒に遊びながら、いくつもの階段（ハードル）を一緒に乗り越えてください。
- その度に達成の体験が、皆さんと子ども達の間で共有され、積み重ねられていきます。
- そして、子ども達は、皆さんを親しく感じるだけでなく、深く信頼し、皆さんの誘いならば、あきらめず、様々な体験に挑戦したいと思えるようになるはずです。

◆創意工夫で遊びを創る、新しいことに挑戦する力を与えるメニューづくり（考え方）


- 皆さんが子どもの頃には、身近な自然や町並み、日常生活の小道具や木々、石ころといった限られた



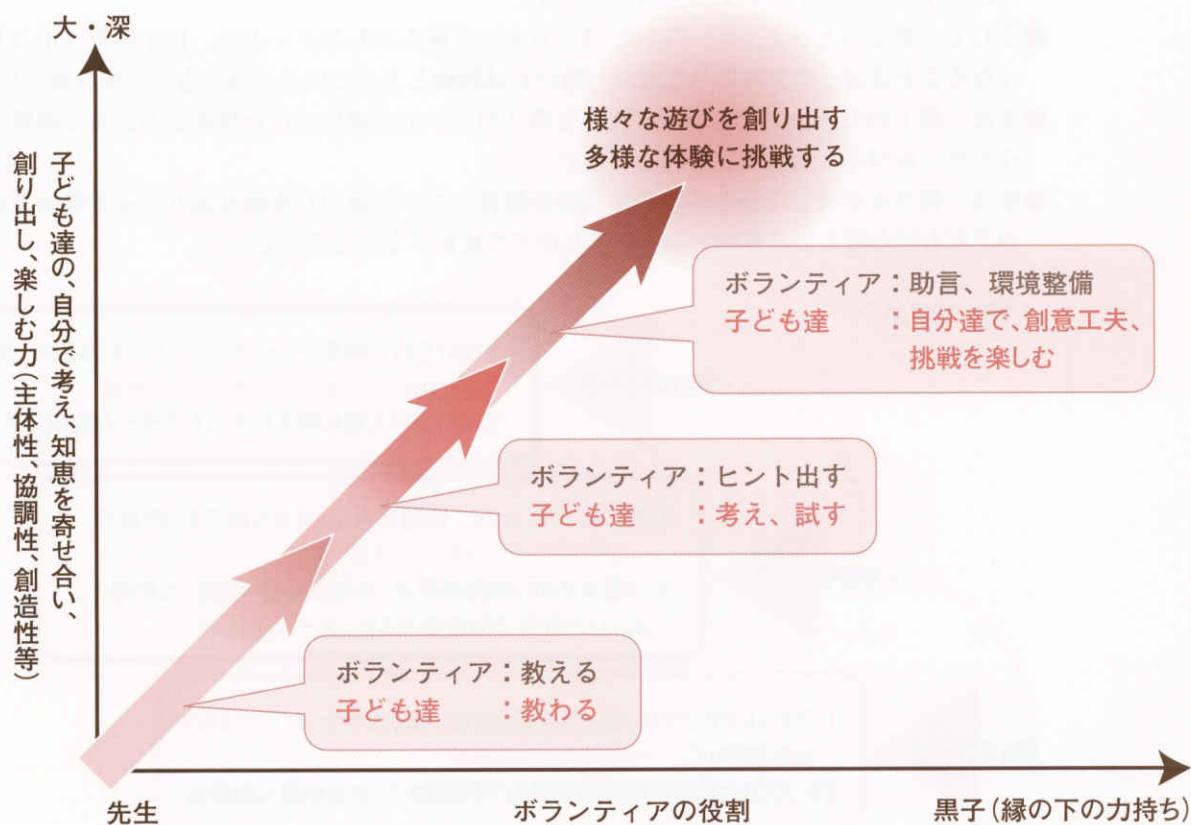
条件ながら、創意工夫で楽しさにあふれた遊びの世界を創り出したのではないのでしょうか。お兄ちゃん、お姉ちゃんの技や知恵に驚きながら、いつか自分もと、難しいことへの挑戦も楽しんでいたのではないのでしょうか。

- そんな皆さんの子ども時代の遊びの良さを、今の子どもが味わえるように、ご自分の趣味、やりたいこと、かつてならした腕などを活かして、様々な体験メニューを提供。
- 子ども達が、遊びを創り出したり、いろんなことに自ら挑戦できる力をつけられるような遊びのメニュー（楽しい遊びの時間）を、趣味ややりたいことをもとにつくること、と言い換えることもできるでしょう。

◆何回かの機会にわけて目標に近づくメニューづくり

●下図の真ん中の  で示されているように、子ども達の楽しみ方も、皆さんの役割（ボランティアとしての姿勢）も変わっていきます。

- *最初は、皆さんが積極的に教える場面が多くなるでしょう。
- *そして、頃合いを見計らって、答えを教えるのではなくヒントを出すように応援の方法を変えていきます。
- *そうした皆さんの応援に刺激され、子ども達の「自分で考え、知恵を寄せ合い、創り出し、楽しむ力」も一歩大きく成長（前ページ図左縦軸↑）するでしょう。
- *さらに、子ども達は、主体性、協調性、創造性等を積極的に発揮し、自分達で、創意工夫、挑戦を楽しむようになることでしょう。
- *皆さんの応援の方法も、子ども達が困ったときの助言や、子ども達が思いっきり挑戦や試行錯誤を楽しめるような場面、時間を提供すること（環境整備）が中心となっていくはずです。



- 子ども達と皆さん双方の変化を踏まえながら（予測しながら）、1回のプログラムに限らず、何回かの機会にわけて取り組めるような体験メニューを考えていただく。
- こうしたことも、子ども達の、様々な遊びを創り出す、多様な体験に挑戦するといった力を育む有効な方法とすることができます。

5. 体験メニューづくり例

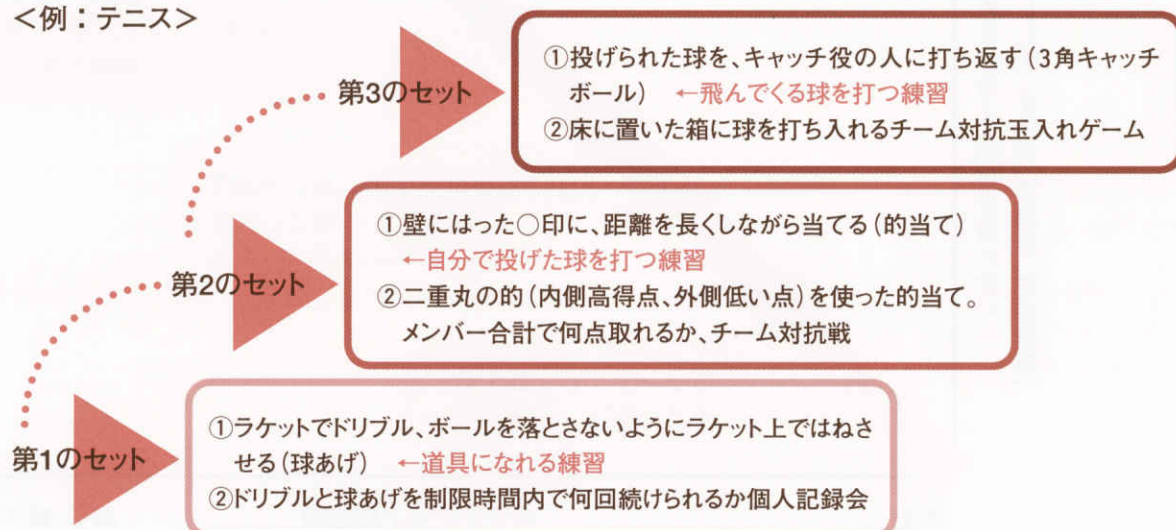
◆スポーツなどをもとにしたメニューづくり

- はじめての子どもに、しかも短い時間で身体を動かすことやスポーツに親しむことの面白さ、良さを実感してもらうためのメニューづくりということになります。
- それは端的にいうと、皆さんが初心者の際に行った練習を遊びにすること。
- イメージとしては、次のような流れのメニューをつくること。

- ①技術を覚える（楽しみながら試す、繰り返す）
- ②覚えた技術を活かして挑戦するゲームを楽しむ
- ※段々と難しくなるように、①→②のセットをいくつか組み立てる

- 技術を覚える（①）段階では、ただ反復練習するのではない「楽しさ」をどのように付け加えるかがポイントになるでしょう。
- ゲームを楽しむ（②）段階では、覚えた技術で挑戦でき達成感を得られる難しさと挑戦の意欲が高まるルールづくりがポイントになるでしょう。
- そして、第2のセット（①→②）では、覚える技術も楽しむゲームも、第1のセットよりも難度が高くなることは言うまでもありません（低ければ挑戦しようという気持ちもわかず、楽しめません）。
- また、第1のセットで身につけた技術と第2のセットで身につけた技術をあわせて挑戦が楽しめるようなゲームづくりもポイントになります。
- 要は、皆さんが種目を楽しむために技術を獲得してきた道のりを振り返り、その道のりを、未経験者の子ども達が楽しめる体験メニューにしたてて提供、と言えるでしょう。

<例：テニス>

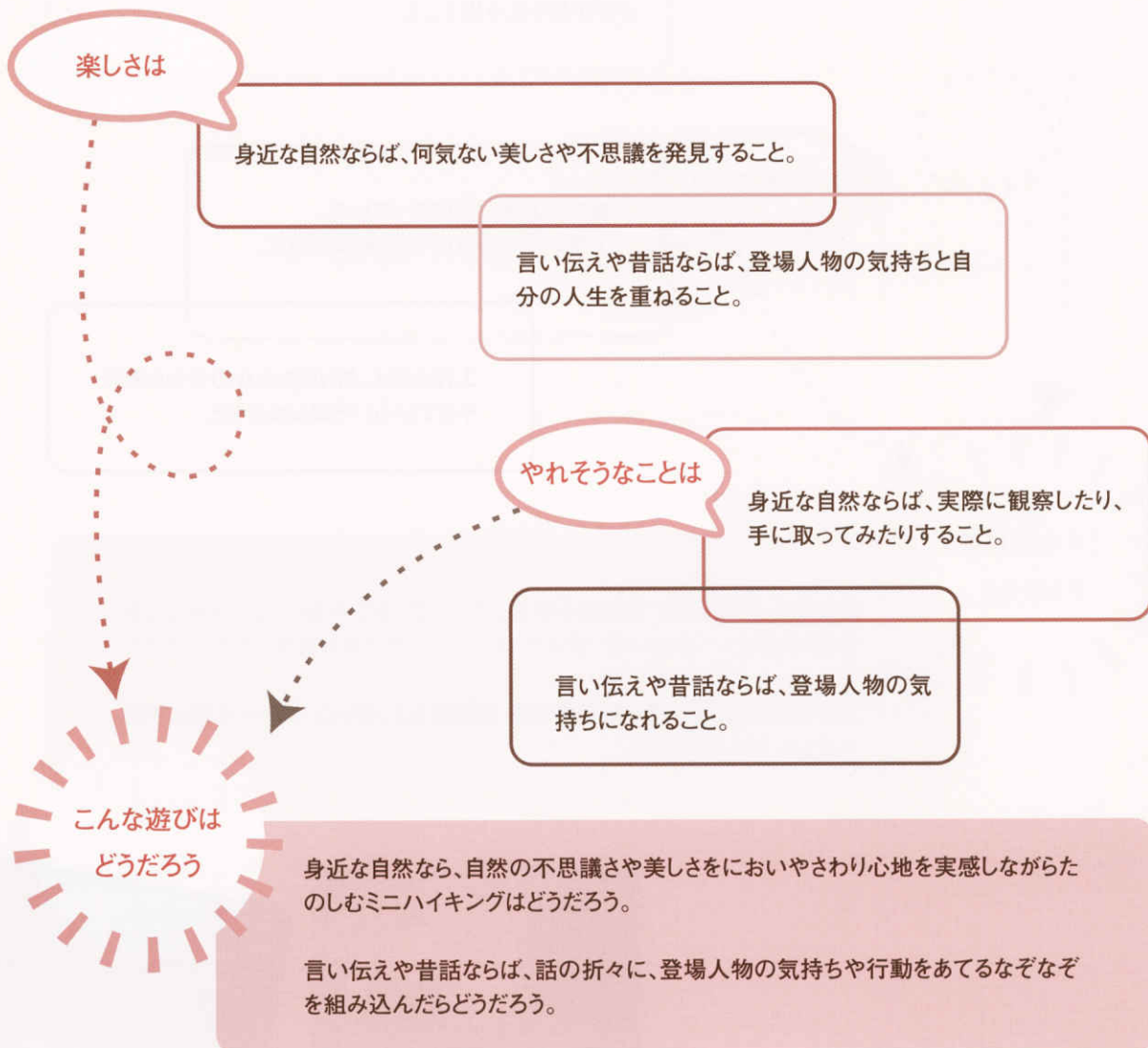


◆創作活動や学習活動、昔遊びをもとにしたメニューづくり例

- 絵を描いたり、木ぎれや模型などを組み立てたり、自然観察をするといった趣味を楽しむ方。また、昔取った杵柄で、昔遊びを体験して貰いたいと思う方。
- そんな方には、次のような道筋で、小さな成功体験を味わえるメニューづくりもお薦めです。

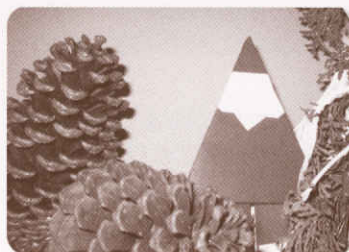
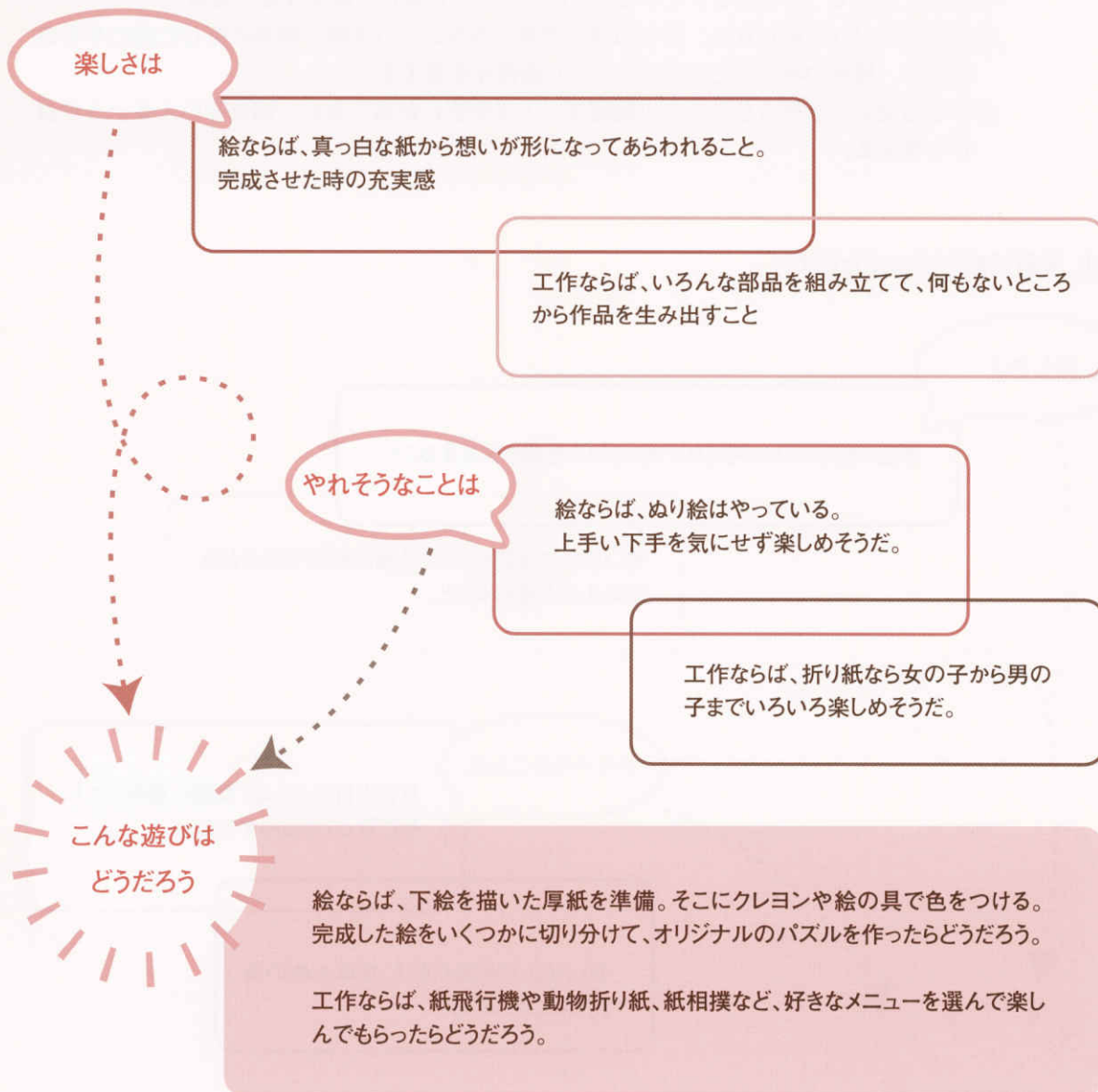
- ①自分にとって（夢中になっている大人にとって）の楽しさは何かを考える。
- ②浮かび上がった楽しさと、子ども達にできそうなこと（年齢、発達に応じた筋力や手の器用さ、理解力等でもできそうなこと）は何かを考える。
- ③子ども達のできそうなことでの範囲で、①で分析した楽しさの一部を味わえるような遊びを考える。

★例えば、学習活動を活かすならば



- そして、子ども達の前向きな姿勢、意欲の高まりに応じて、自然観察ならばコースや観察のポイント選び、創作活動ならば材料集めから展示の仕方まで、子ども達の意見やできそうなこと（ちょっと高いハードルかなと思えることでも）をどんとんと反映させていけばよいのです。

★例えば、ものをつくる活動を活かすならば



■ ■ 道具づくりと遊びづくりを同時に楽しんでみてはどうでしょう ■ ■

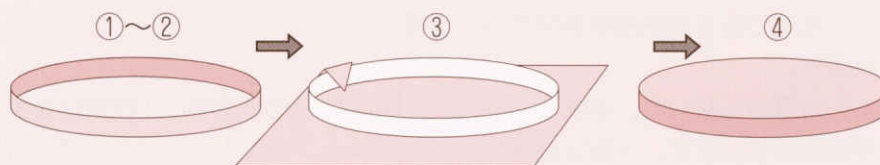
～手づくりディスクを例に～

- *新聞紙などをつかってディスク（いわゆるフリスビーの円盤）をつくる。
- *お気に入りのできたら・・・。
- *まっすぐ飛ばす、左右に曲げるなど投げ方の練習（キャッチボール等）。
- *飛距離、飛行時間の記録への挑戦、的当て、ピング、ゴルフ風のゲームなどを楽しむ。
- *練習や遊びを重ねながら、ディスクも試行錯誤。改良型のディスクをつくる。
- *こうした過程で、次の3つの喜び・達成感を同時に味わえる。

- 【1】腕前があがる喜び
- 【2】工夫を凝らしディスクをつくる創作の喜び
- 【3】自分たちで知恵を出し合いルールを決めて、ぴったりの遊びができあがる喜び

<ディスクの作り方>

- ①新聞紙半分ほどを折り込み幅3センチ程の帯をつくる
- ②上記①の帯で輪を作る（直径15～40センチ程度、帯の長さもこの時重なり部分を数センチ残し切り調整）
- ③輪の直径より5～10センチほど長い辺の正方形に切り取った新聞紙を上記輪の下に敷き、輪の外側に出た新聞紙を、輪の内側に織り込む
- ④上記③を一周させると高さ3センチ程度、直径15センチ～40センチ程度の円盤ができる



遊びの城が全国で展開中!

URL:www.recreation.or.jp/asobi/

遊びを通して子どもたちを応援するレクリエーション・ボランティアが活躍する「あそびの城」が、全国 98 カ所（平成 20 年度）で展開中。こうした先輩達の取り組みに参加するのもおもしろい。詳しくは、あそび.net にアクセス!



あそびの城で協力 文部科学省「子どもの居場所づくり新プラン」

平成 19 年度より、スタートした「放課後子どもプラン」。地域社会の中で、放課後や週末等に子どもたちが安全で安心して、健やかに育まれるよう、文部科学省と厚生労働省が連携して進めています。具体的には、放課後や週末等の子どもたちの適切な遊びや生活の場を確保したり、小学校の余裕教室などを活用して、地域の方々の参画を得ながら、学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動などの取組を実施します。

現在、多くの市町村において、小学校や公民館、児童館などを活用し、地域性を生かした「放課後子どもプラン」が展開しています。((財)日本レクリエーション協会も、子どもの居場所となる拠点を「あそびの城」と呼び、一層の充実に取り組んでいます。

平成 19 年度より、文部科学省と厚生労働省がともに取り組む「放課後子どもプラン」の中で「子どもの居場所づくり」がますます充実しています。
(財)日本レクリエーション協会も「あそびの城」の一層の充実を通して、これまで以上に協力していきます。

平成20年度のあそびの城 実施地域一覧

★北海道 011-866-0979

砂川市／帯広市

★青森県 017-766-0264

八戸市／青森市／むつ市

★岩手県 019-647-7413

一関市／盛岡市

★宮城県 022-718-0951

石巻市／登米市／蔵王町

★秋田県 018-847-6143

秋田市

★福島県 024-544-1886

福島市／会津若松市／伊達市

★茨城県 029-300-6077

水戸市

★群馬県 027-234-5555(内 580)

前橋市／高崎市／渋川伊香保町

★埼玉県 048-776-2421

さいたま市

★千葉県 043-290-8361

鎌ヶ谷市／船橋市／柏市
／四街道市／袖ヶ浦市／茂原市

★東京都 03-5433-5055

練馬区／八王子市

★新潟県 025-287-8709

長岡市／村上市／新潟市

★石川県 076-247-6909

金沢市

★福井県 0776-35-5509

福井市

★山梨県 055-223-1782

南アルプス市／都留市／山梨市

★長野県 026-233-5575

松本市／安曇野市

★岐阜県 058-295-7257

岐阜市／各務原市／大垣市

★静岡県 054-254-0919

静岡市／富士宮市

★愛知県 052-618-5409

長久手町

★京都府 075-634-7584

城陽市／京丹後市／城陽市
／京都市

★大阪府 06-6634-1702

豊能町／高槻市

★兵庫県 078-351-3307

洲本市／高砂市

★奈良県 0742-33-1045

奈良市／大和郡山市／広陵町
／生駒市／王寺町

★鳥取県 0857-23-1866

米子市／鳥取市

★島根県 0852-61-5256

松江市／浜田市

★岡山県 086-253-7545

高梁市／和気町

★広島県 082-228-6951

広島市／福山市

★山口県 083-934-5510

宇部市

★徳島県 088-677-5225

海部郡美波町／藍住町／徳島市
／板野郡松茂町

★香川県 087-862-7078

高松市／善通寺市

★高知県 088-834-3847

香南市

★福岡県 092-641-1022

北九州市／大野城市／篠栗町
／筑紫郡那珂川町／大川市
／行橋市／春日市／筑後市

★佐賀県 0952-51-3093

武雄市／神崎市／佐賀市／多久市
／杵島郡江北町

★熊本県 096-380-6662

阿蘇郡小国町

★大分県 097-567-9590

由布市／大分市

★沖縄県 098-932-9870

宜野湾市／石垣市

※：★印は、各都道府県レクリエーション協会の電話番号(問い合わせ先)

未来へと続く風景を 創っています。

「当たり」が魅力の宝くじは、もうひとつ大切な役割を担っています。それが、皆さんの暮らしに「お役に立っている」収益金による街づくり事業です。教育施設、道路、橋、公民館等、幸せな生活を支えるさまざまなところに宝くじの収益金は役立てられています。

●外国発行の宝くじも、日本国内において購入することは、法律で禁止されています。

宝くじの収益金は、
身近な街づくりに役立っています。



財団法人 **日本宝くじ協会**

当せん抽籤がいつでも、しっかり換金。

<http://www.jla-takarakuji.or.jp>

(財)日本レクリエーション協会は、都道府県レクリエーション協会及び市町村レクリエーション協会と協力して、市民の健やかな余暇活動の機会を提供するとともに、多様なレクリエーション活動の普及と、それを楽しむための仕組み、組織づくりに取り組んでいる財団法人です。平成5年には公益性の高い財団法人に認められる特定公益増進法人として認定され、当協会への寄付金については、所得税、法人税が免除されることになっております。

また、平成10年には、国、地方公共団体と同様に紺綬褒章の申請団体として、総理府より認定されています。それにより、当協会に一定額を寄付した場合には、寄付者は紺綬褒章受章の対象となることが出来ます。

特定公益増進法人

(財)日本レクリエーション協会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-20-7 水道橋西口会館6階

TEL 03-3265-1241 FAX 03-3265-1245

URL <http://www.recreation.or.jp>

「REC on line レクオンライン」(財)日本レクリエーション協会ホームページ

E-mail soumu@recreation.or.jp